フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ

科目責任者　奥　田　竜　也
学年・学期　１学年・１学期

Ⅰ．前　　文

移植医療とは，病気や事故によって臓器や組織が正常に機能しなくなった方に，他の方の健康な臓器や組織を移植して（置き換えて）機能を回復させる医療である。根本的な治療法がない臓器や組織の疾患を抱える患者さんにとっては，状況を打開できる可能性のある唯一といっても過言では無い治療法となっている。一方で，移植医療は他の医療とは異なり，疾患を抱え臓器を受け取る患者さん（レシピエント）だけでなく，必ず臓器を提供するドナーが関わる特殊な医療である。脳死下あるいは心停止後の方がドナーになる死体移植と，健康な方がドナーになる生体移植があり，いずれの場合にも様々な問題点や矛盾点があることを忘れてはならない。

フィクションとファクトから学ぶ移植医療Iでは，まずノーベル賞作家，カズオ・イシグロによってクローン人間を題材として執筆された文学作品『わたしを離さないで』を通して移植医療に関わる倫理的な側面を考察する。続けて生体移植のドナー経験者と現役の移植外科医の立場から移植医療の現状や問題点などを事実を基に学ぶように構成されている。このようにフィクションとファクトを通して移植医療とこれを取り巻く諸問題について深く学修することで，医師に求められる倫理観や死生観を涵養することを目的とし，文理一体となって教育を行う新しいタイプの授業となっている。

また，１学期開講の「フィクションとファクトから学ぶ移植医療Ⅰ」では，２学期の自由選択科目を利用して学修内容を論理的にまとめ，効果的に他者に伝える術を学ぶと共に，獨協医学会での発表を目標とする。

Ⅱ．担当教員

奥　田　竜　也（基盤教育部門）
礒　　幸　博（第二外科）
廣　田　美　玲（語学人文教育部門）

Ⅲ．一般学習目標

移植医療について正確に理解する。
人の死の定義について理解する。
移植医療にまつわる倫理問題について理解する。
移植医療の潜在的問題点に気付く。

Ⅳ．学修の到達目標

物事を多角的に見つめ，問題を抽出できる。
移植医療に関し，自身の考えや意見をまとめ，他者に正確に伝えることができる。
他者の考えや意見を聞き，議論することができる。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業形式（事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。）
２：ディスカッション　３：グループワーク　４：実習　５：プレゼンテーション　６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	4	21	水	4	『わたしを離さないで』第1部（1章～9章）：プレゼンテーションとディスカッション	廣　田　美　玲	2, 3
2		28	水	4	『わたしを離さないで』第2部（10章～17章）：プレゼンテーションとディスカッション	廣　田　美　玲	2, 3
3	5	12	水	4	『わたしを離さないで』第3部（18章～23章）：プレゼンテーションとディスカッション	廣　田　美　玲	2, 3
4		19	水	4	移植医療と人の死	奥　田　竜　也	2, 3
5	6	2	水	4	生体移植ドナーから見た移植医療	奥　田　竜　也	2, 3
6		9	水	4	移植医が伝える実際の生体臓器移植	礒　　幸　博	2, 3
7		16	水	4	移植医が伝える実際の脳死臓器移植	礒　　幸　博	2, 3

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各回の発表やグループワーク，ディスカッション（50%），最終レポート（50%）として評価します。

Ⅶ. 教科書・参考図書・ＡＶ資料

カズオ・イシグロ（土屋政雄 訳）『わたしを離さないで』早川書房, 東京, 450 pp, 2008

その他，参考資料等は適宜配付／紹介します。

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付けます。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価対象項目については，全体向け講評を基本とし，必要に応じて，個別にフィードバックを行います。

Ⅺ. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前：詳細はシラバス別冊に記載する。特に記載のない場合は要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

事後：詳細はシラバス別冊に記載する。特に記載のない場合は講義内容をまとめておくこと。（所要時間の目安30分）

Ⅻ. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載する。